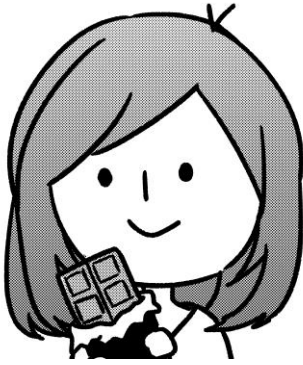


第42回 広島文化賞受賞者

個人の部 (メディア芸術-漫画)



もりくら
森倉 ちろル 氏
呉 市

呉市在住の漫画家、26歳。

高校卒業後、イラストレーター希望であったが、絵を評価されたことをきっかけに漫画家を目指す。

2018年に『夢から覚めたら』が、集英社マーガレット主催の「まんがゼミナル+ (プラス)」で第1位準入賞を受賞し、マーガレット本誌に掲載されたことによりデビューが叶い、2021年3月には異例の早さで単行本『4×4 (フォーバイフォー) ~お隣さんは4B男子~』(集英社)を発売。

2019年から「ザ・マーガレット」で連載中。

広島文化賞 贈呈の状況

回	開催年月日	贈呈数		回	開催年月日	贈呈数		回	開催年月日	贈呈数	
		個人	団体			個人	団体			個人	団体
第1回	昭和55年10月21日	11	4	第19回	平成10年10月28日	2	1	第37回	平成28年11月24日	1	1
第2回	昭和56年10月21日	8	4	第20回	平成11年10月13日	2	—	第38回	平成29年11月30日	2	—
第3回	昭和57年10月14日	5	6	第21回	平成12年10月25日	2	1	第39回	平成30年11月 6日	1	1
第4回	昭和58年10月20日	7	6	第22回	平成13年10月18日	2	1	第40回	令和元年11月 8日	—	—
第5回	昭和59年11月6日	6	6	第23回	平成14年10月24日	2	1	第41回	令和2年12月 4日	1	1
第6回	昭和60年11月13日	5	5	第24回	平成15年11月21日	2	1	第42回	令和3年12月 6日	1	—
第7回	昭和61年12月3日	5	5	第25回	平成16年11月16日	2	1				
第8回	昭和62年11月2日	3	4	第26回	平成17年12月3日	2	1				
第9回	昭和63年11月29日	4	4	第27回	平成18年11月28日	2	1				
第10回	平成元年11月20日	4	3	第28回	平成19年11月26日	2	1				
第11回	平成2年11月14日	3	6	第29回	平成20年11月18日	2	1				
第12回	平成3年10月25日	6	6	第30回	平成21年11月26日	2	1				
第13回	平成4年10月27日	4	2	第31回	平成22年11月22日	2	1				
第14回	平成5年10月22日	3	3	第32回	平成23年11月14日	2	—				
第15回	平成6年10月8日	3	3	第33回	平成25年11月19日	1	1				
第16回	平成7年10月15日	2	1	第34回	平成25年11月25日	—	1				
第17回	平成8年10月19日	2	1	第35回	平成26年11月26日	2	1				
第18回	平成9年10月15日	2	1	第36回	平成27年11月16日	2	1	合計	個人122	団体89	



令和3年度ひろしま文化功労者表彰 受賞者



ふじま ひとみ
藤間 妃利美 氏
(舞踊 - 邦舞)

福山市

福山市在住の舞踊家 69歳。

幼少のころから藤間流 藤間勘利美（ふじまかんとみ）氏のもとで日本舞踊を習い、1987年に「藤間流妃利美の会」を発足し、舞踊講師として長年指導に当たっている。

「福山ばら祭り」や「福山総合文化祭 芸能大会」への出演、ボランティアで敬老会等への参加や舞踊の披露、年齢を問わず家族と一緒に楽しみながら舞踊に触合う機会を設けるなど、積極的に舞踊の普及や地域貢献に努めている。

藤間流妃利美の会は1993年に福山文化連盟に加入し、藤間氏は2020年に同連盟女性初の会長に選任される。

2016年に「福山市善行市民表彰」を受賞。

ひろしま文化功労者表彰 贈呈の状況

年度	回	開催年月日	贈呈数
平成25年度	第1回	平成25年11月25日	—
平成26年度	第2回	平成26年11月26日	—
平成27年度	第3回	平成27年11月16日	3
平成28年度	第4回	平成28年11月24日	1
平成29年度	第5回	平成29年11月30日	1
平成30年度	第6回	平成30年11月6日	2
令和元年度	第7回	令和元年11月8日	2
令和2年度	第8回	令和2年12月4日	1
令和3年度	第9回	令和3年12月6日	1
合 計			11



公益財団法人ひろしま文化振興財団

第2回 広島文化新人賞受賞者

個人の部(美術-書)



井 田 明 宏 氏
広 島 市

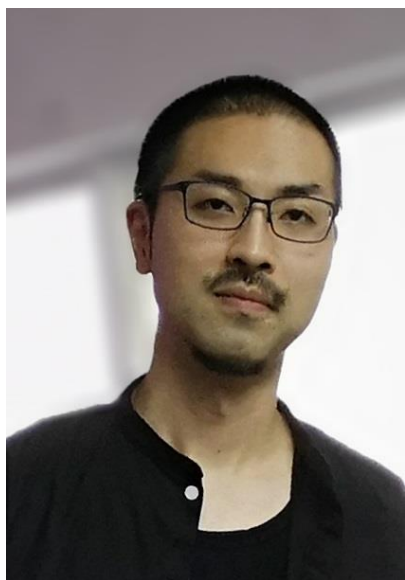
広島市在住の大学教員、28歳。筑波大学大学院博士前期課程を修了後、一般財団法人筆の里振興事業団筆の里工房（広島県安芸郡熊野町）で3年間の学芸員を経て、現在は安田女子大学文学部書道学科助教。

書法（作品制作）と書学（学術研究）の両面に注力し、その相互効果により自身の能力を高め、日常の文字である漢字仮名交じりの書を作品制作の軸に置いて、多くの人にとって親しみやすい「現在の日常の書」を芸術の領域に高めていく表現活動を行っており、一般の人を対象とした「書」に関するワークショップなど啓蒙活動も行っている。

また、筆の里工房学芸員時分より、熊野筆の歴史と技術の伝承に関する資料収集や整理に携わり、現在は熊野町や関係団体と連携し、熊野筆の県無形民俗文化財登録に向けて調べを継続している。

2019年に毎日書道展で公募部門最高賞の「毎日賞」、2021年に高野山競書大会で最高賞の「弘法大師賞」など、全国規模の公募展での受賞を重ね、毎日書道会では会員として無鑑査出品資格を得ている。

個人の部(美術-映像・彫刻)



い さ や ま げん き 氏
諫 山 元 貴 氏
広 島 市

広島市在住の美術家、34歳。広島市立大学大学院芸術学研究科修了。現在は、広島県廿日市市に共同アトリエ「スタジオピンクハウス」を構え、制作活動に加えて若手作家の活動を支援する事業を企画運営している。

学生時代は彫刻を学び、代表作である映像作品（Orderシリーズなど）は陶芸の技法を利用するなど造形作業も多く、唯一無二の手法を用いた映像となっている。近年は、その映像作品と別のオブジェを共に展示するといったジャンルを超えた表現、展示をしている。

また、作品発表の場を美術館やギャラリーではない場所で積極的に行うなど、環境の一つとして映像作品が置かれるための開拓にも取り組み、文化芸術の発展と地域住民が自然と芸術に触れることが出来る環境の実現を目指している。

「NONIO ART WAVE AWARD 2019」（ライオン(株)主催）では1632作品中第一位であるグランプリを受賞。

個人の部(美術-絵画)



て じま ゆう き 氏
手 嶋 勇 気
広 島 市

広島市在住の32歳、画家、広島市立大学芸術学部非常勤助教。広島市立大学大学院芸術学研究科修了。

母校で教鞭を持つ傍ら、絵画クラブの講師や同世代の画家、彫刻家らと共同で「Hiroshima Drawing Lab」を設立し、展覧会やイベントの企画のほか、広島県廿日市市の共同アトリエ「スタジオピンクハウス」にギャラリーを開設し、学生や若手作家の展示、勉強会の場所として利用する事業の企画などを行っている。

近代の絵画シリーズ(AIDシリーズ)は、スマートフォンのアプリで描いた広島風景画を絵の具で精巧に複写した油彩で、現代的な手法と古典的な技法を交えることが可能な独自の制作方法であり、学生時代に研究した写実絵画の古典技法(フレスコ画やテンペラ画など)による画力と技法の発展が現在の抽象度が高い表現で活かされた作品である。

2021年、「sanwacompany Art Award/Art in The House 2021」(株式会社サンワカンパニー主催)グランプリを受賞。

広島文化新人賞 贈呈の状況

回	開催年月日	贈呈数	
		個人	団体
第1回	令和 2年12月 4日	3	—
第2回	令和 3年12月 6日	3	—
合計		6	0

